



北浜遺跡

畑地で発見された擦文時代の 土器や竪穴住居跡

遠別町市街地から北に300mほどの小高い丘陵地で発見された「北浜遺跡」は1万1000平方メートルに及ぶ畑地で、昭和54年(1979年)に埋蔵文化財包蔵地として指定されました。遺跡の発見者は土地を所有する坂川照雄さんで、自家用野菜を栽培している畑で深耕した際、表土に混じって土器のうち2片を発見。土器とは知らずに保存していたところ、当時、高校生だった坂川さんの長男と次男が学校祭で展示されていた天塩川遺跡の土器を見て、「うちにもこれと同じものがある。」と教師に話したことが、遺跡確認のきっかけとなりました。

調査の結果、発見された土器片の一つは縦7.5cm、横10cm。貼付文(てんぷもん)と呼ばれる深鉢の口縁部(鉢の上部)で、粘土を別に細工した模様の擦文式土器の中でも珍しいものであることが分かりました。もう一つは刻線文(刻み込んだ模様)のある縦10cm、横6cmの深鉢胴部で、このことから1000年前の擦文時代にも遠別に人が住んでいたことが証明されたのです。

その後、昭和58年(1983年)10月には、ほぼ全体の形が分かる擦文土器が発見され、3基の竪穴住居跡も確認されました。これらの発見により、北浜遺跡は擦文文化期に40~50戸の集落があったと見られ、江戸後期における蝦夷地探検踏査の紀行類によると、北浜遺跡周辺は初山別豊岬~天塩間の休憩所があったところで、地理的な好条件に恵まれていたと推定されます。

北浜遺跡から出土した出土品は、遠別町郷土資料館に展示されています。

見どころ

遠別では北浜遺跡のほか、北里遺跡も発見され、擦文土器や竪穴式住居跡、縄文土器、縄文時代の石斧などが出土しています。これらは旧遠別川流域が、サケ・マスの捕獲や他の土地への移動が便利な場所だったことを示しています。

ポイント

土地の所有者である坂川さんが土器片を発見し、それを2人の息子さんが捨てずに保存していたことが北浜遺跡発見のきっかけとなりました。留萌管内では初山別村、苫前町などで遺跡が発見されていただけに遠別町初の遺跡発見は当時、大きなニュースとなりました。

五感で感じる！ 風土資産の魅力



擦文土器や竪穴式住居跡、縄文土器などは遠別川を遡上するサケ、マスの捕獲に便利だったり、土地の移動に便利な地理的条件に恵まれたところで見つかり、数千年前に人間の生活が営まれていた証として、当時の生活に触れるための貴重な資料となっています。



遠別町の地名はアイヌ語の「ウェン・ベツ」(「悪い川」あるいは「相話する川」の意)に由来し、明治時代に本州から越前団体、愛知団体が開拓入植したことにより開基しました。また町内の北浜・北里地区においては縄文・擦文遺跡の存在が確認されており、古来からも居住があったことを物語っています。

■基本情報(R1.5)

住 所：天塩郡遠別町字北浜
問い合わせ：遠別町教育委員会
TEL：01632-7-2353